

黙示録21章1-8節 「すべてを新しくする」

1A 新しいエルサレム 1-4

1B 新天新地 1

2B 天からの都 2

3B 神の幕屋 3

4B 死の滅び 4

2A 御業の完徹 5-8

1B 確かな言葉 5

2B 事の成就 6

1C 全てを司る方

2C ただで飲む命の水

3B 勝利者と第二の死 7-8

本文

黙示録 21 章を開いてください。私たちは前回、千年間のキリストの王国、地上における統治を見ました。それから地も天も跡形もなくなった後で、白い大きな御座の前で、死んでいた者がよみがえり、裁きを受けて、火と硫黄の池に投げ込まれたところを読みました。そしてこれから、ついに新天新地と新しいエルサレムの幻を読んでいます。私たちが今日の箇所です。学ぶのは、「すべてを新しくする」であります。すべてが新しくなると、後で主ご自身が宣言されますが、キリスト者の信仰において、すべてが新しくなるということはどういう意味なのかを探っていきたいと思います。

1A 新しいエルサレム 1-4

1B 新天新地 1

¹また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

私たちは 20 章で、イエスが地上に再臨される時に、その地が刷新されることについて学びました。それは既存の天と地にあるものを、再び元ある通りに修復し、回復する働きです。ですから、主が六日目に人をご自分の形に造られて、地を支配しなさいと命じられた時と同じように、エデンの園にあったような環境に主が回復された世界であります。

しかし、「新しい天と新しい地」においては、刷新ではなく、完全な新創造であります。この言葉が出てくるのは、イザヤの預言です。「65:17 見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のこととは思い出されず、心に上ることもない。」ここの「創造する」という言葉は、ヘブル語の「バラ」です。これは創世記 1 章 1 節に使われている言葉であり、無から有を創造するということです。もう一つ、

「造る」というヘブル語で「アサ」がありますが、それは「既に存在しているものから何かを造る」ことを表します。例えば、ダイヤのネックレスは造ることはできますが、ダイヤモンドの原石は、その物質は創り出すことはできません。それは、無から有の創造だからです。

そのこと、全く新しい創造、再創造を主は今、ここで行われているのです。このことを、ペテロが第二の手紙で話していました。「3:12-13 そのようにして、神の日が来るのを待ち望み、到来を早めなければなりません。その日の到来によって、天は燃え崩れ、天の万象は焼け溶けてしまいます。しかし私たちは、神の約束にしたがって、義の宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」全ての天の万象が崩れ去り、溶け去ります。そして、全く新しく、天と地が造られます。完全な万物の一新であります。そして、その新天新地の特徴は「正義が住んでいる」とあります。神の正義が満ちているところであり、栄光の姿に変えられた者たちだけが住むことのできる場所です。

「以前の天と、以前の地は過ぎ去り」とあります。黙示録 20 章 11 節において、地も天もその御前から過ぎ去ったとありました。イエス様も、このことを強く意識して、ご自分のことばの確かさを語られました。「マタ 24:35 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。」ヘブル書の著者は、詩篇 102 篇を引用して、これが着物を着替えることとして語っています。「1:10-12 主よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえられます。すべてのものは、衣のようにすり切れます。あなたがそれらを外套のように巻き上げると、それらは衣のように取り替えられてしまいます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。」

ちょうど私たちはこの前の礼拝で、コロサイ書で、万物と神との和解について学びました。「1:20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとくださったからです。」キリストの流れされた血によって、私たちの魂が罪から清められただけでなく、万物が神と和解されたのですが、それが今、この箇所を実現しているということです。

そして、「もはや海もない」とあります。20 章において、海の中に死者がおり、死者がよみから出されたとありましたが、神を認めない者たちがいるところとして海があります。17 章においては、大淫婦が座っていたのは大水の上であり、それは、もろもろの民族、群集、国民、国語であるとあります(15 節)。獣、反キリストも、13 章によると、海から出てきていることが分かります。海は、このように不法と不正、罪が葬り去られているところとして描かれています。福音書にも、小さき者をつまずかせる者は、碾き臼をくくりつけて、海に投げ込まれたほうがましとありますし、レギオンが、湖の底に豚と共になだれ込んだところにも表れています。そして、ミカの預言の最後に、罪を海の深みに投げ入れてください、という言葉があります(7:19)。

そして、創世記の始まりを思い出してください。「1:1-2 はじめに神が天と地を創造された。地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。」大水がありました。その大水の下部分が海と主は名づけられますが、ここには既に闇、すなわち罪や陰府を連想する存在となっています。これが無くなります。ですから、罪もなくなり、死もなくなり、陰府もなくなった世界です。新天新地は創世記 1 章 2 節よりも、さらにバージョン・アップした新しい秩序だということがお分かりになると思います。

2B 天からの都 2

² 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。

新しい天と地の次には、「新しいエルサレム」です。新しいエルサレムというからには、古いエルサレムがあるのですが、地上にあるエルサレムです。そこも、ここにあるように聖なる都であり、主ご自身が住まわれるところでした。千年王国のエルサレムも、「聖徒たちの陣営と、愛された都」と書かれていました(20:9)。しかし、それよりも上位にあるエルサレムがあります。パウロが、ハガイとサラの対比を使って、地上のエルサレムの他に、上からのエルサレムがあることを話しています。「ガラテヤ 4:25-26 このハガルは、アラビアにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、今のエルサレムは、彼女の子らとともに奴隷となっているからです。しかし、上にあるエルサレムは自由の女であり、私たちの母です。」

天にある都について、旧約時代から、信仰の父祖であるアブラハム、またイサクやヤコブもこれを恋慕っていたことを、ヘブル書の著者が述べています。「11:16 しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。」そして、同じくヘブル書で、シナイ山に対比させて、天においてシオンの山があることを教えています。「ヘブル 12:22-24 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。」

それが、天から、上からエルサレムが来るというのは、まさに神の御座のある天が降りて来ることです。聖書において「天」というのは、神の御座があるところとして啓示されていました。あらゆる被造物、目に見える物には全く影響されない、神が王として治め、栄光をお受けになっているところとして現れています。「詩篇 115:2-3 なぜ国々は言うのか。「彼らの神はいったいどこにいるのか」と。私たちの神は天におられその望むところをことごとく行われる。」神は目に見えない方ですが、しかし、だからこそ目に見える世界がどうなっていくと、それには全く影響されることなく、

超越しており、むしろそれら目に見えるものをことごとく治めておられるところが、天であります。それをコリント第二 12 章 3 節における、パウロが引き上げられて見た、「第三の天」でありました。第三の天ということは、第二の天もあり、第一の天もあるということですが、第一の天は鳥や雲のあるところと言えるでしょう。第二の天は、「空中」とも呼ばれるところですが、けれども、第三の天は神の御座であり、エゼキエルの預言によると、天のはるか上にあるところで(1 章)、それゆえ主は「いと高きところにおられる方」として呼ばれています。

「天から降って来る」という表現ですが、私たちが新しく生まれることをイエス様がニコデモに語られた時に、語られたことを思い出します。「ヨハネ 3:3 まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ここの「新しく生まれる」という言葉は、「上から生まれる」とも訳すことのできる言葉です。したがって、私たちの御霊による新生体験は、まさに将来の新しいエルサレムを前もって味わう、そのミニチュア版であることが分かります。

それから、「夫のために飾られた花嫁のように」整えられているとあります。すでに、19 章で、天において子羊の婚宴にあずかった私たちがいました。天に引き上げられている教会の姿です。ここでは、都自体が花嫁のように着飾っています。イザヤの預言にも、同じように花嫁のように着飾っている姿が出てきます。「イザ 54:11-12 苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰められなかった女よ。見よ。わたしはアンチモンであなたの石をおおい、サファイアであなたの基を定める。あなたの塔を紅玉にし、あなたの門をきらめく石にし、あなたの境をすべて宝石にする。」この様子を、次回、21 章後半部分で読んでいきます。

3B 神の幕屋 3

³ 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

神の究極の人間に対する目的が、ここで実現しています。それは、神が人と共に住むということです。神が独り子をご自分のふところに永遠の昔から入れておられるように、ご自分のかたちに造られた人を、ご自分のところに住ませることが目的でした。それが、エデンの園で行われようとしたのですが、罪を犯したために園からアダムとエバが追放されました。

それゆえ、神はご自分の家を人に提供しようとしてこられました。ヤコブに対して、天のはしごの夢を見せて、ヤコブはそこを「神の家だ」ベテルと名づけました。そして、モーセに対して地上の天幕の型を示し、その至聖所の贖いの蓋、ケルビムの間からご自身が語られるとしました。そして、ソロモンがその寸法の二倍の神殿を建てました。そしてイエス様が現れたのです。

イエス様が人の姿、肉体を取られた目的を、黙示録を書き記した同じヨハネが言っています。「ヨ

ハネ 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」「住まわれた」という言葉は、「私たちの間に幕屋を張られた」という言葉と同じです。イエス様を信じ、受け入れることによって、そこが聖所となり、神と共に住むことができ、そして、その救いの完成においては、新しい天と新しい地において共に住むということを実現できるのです。

そして、「人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として」という言葉は、その親しみを示している表現ですが、エレミヤ書 31 章 33 節にある新しい契約にも使われている言葉でした。「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」とあります。罪が赦され、拭い去れることによって、そのような親しい関係に入ることができます。そして、「民」として一つにくられていることにも注目です。民でありますから、一つの家族、一つの集合体、共同体です。教会が、男も女も、ユダヤ人もギリシア人も、自由人も奴隷もキリストにあって一つでありますし、また新しいエルサレムにおいては、贖われたイスラエル十二部族も神の民になっています。一つの神の民になっています。

4B 死の滅び 4

⁴ 神は彼らの目から 涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」

究極の慰めが、新しいエルサレムにおいて実現します。「涙をことごとくぬぐい取ってくださる」とありますが、これは、「死」が取り除かれることによって、死によってもたらされる悲しみ、叫び、苦しみもなくすということです。

人間にとって、もっとも不条理なことは生を受けたのに、死ななければいけないことです。ヨブのことを思い出してください、彼はとてつもない苦しみの中に入れられた時に、自分の生まれてきた日を呪いました(3 章)。人は元々、死ぬために生まれていなかったのです。アダムとエバは、死ぬようには造られていませんでした。罪が死をもたらしただけです。この苦しみをよく表しているのが、あのラザロの死においてです。「ヨハネ 11:33-38 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になった。そして、霊に憤りを覚え、心を騒がせて、「彼をどこに置きましたか」と言われた。彼らはイエスに「主よ、来てご覧ください」と言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか。」しかし、彼らのうちのある者たちは、「見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかったのか」と言った。イエスは再び心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓は洞穴で、石が置かれてふさがれていた。」イエス様の流された涙、そして心の憤りは、死そのものに対する憤りです。それで、イエス様は大声で、「ラザロよ、出て来なさい」と叫ばれたのです。

パウロは、最後の敵を「死」と位置付けています。「1コリント 15:24-26 それから終わりが来ます。

そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。最後の敵として滅ぼされるのは、死です。」最後の最後まで残っていたものが、死でありました。ですから、最後の審判において、「死とよみ」(20:13)を火の池に投げ込まれたのです。

そして、「以前のものが過ぎ去ったからである。」と言っています。これは次の、御座からの言葉へつながっています。すべてのものを新しくされたので、死によってもたらされた、涙、苦しみ、悲しみ、嘆きというものが全て過ぎ去ります。

2A 御業の完徹 5-8

1B 確かな言葉 5

⁵すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

ここから、御座に着いておられる方、神とキリストご自身の言葉です。「見よ」という言葉から始まっています。注目させています。そして、「わたしはすべてを新しくする。」であります。この言葉で思い出すのが、パウロの言葉です。「Ⅱコリ 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」私たちが霊的に新生したことを話しているだけではなく、万物が一新することまで含んでいます。御霊による新生というのは、被造物が全く変えられる、新たにされることの初穂、始まりなのです。私たちの中に、将来の希望、宇宙も全てが変えられるのだという希望があるのです。

そして、わざわざ、「真実であり、信頼できる。」と言われているのは、あまりにも素晴らしいから、信じられないかもしれないと思いついて、語っておられる言葉です。主ご自身が今、太鼓判を押しおられるのです。

2B 事の成就 6

1C 全てを司る方

^{6a}また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。」

「事は成就した」という言葉ですが、イエス様が十字架の上でも同じような言葉を語られましたね。「ヨハネ 19:30 イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。」ここにおいても、同じです。イエス様が贖いの業を完成されましたが、その時に、ここにおける事が成就したということまで含めて、お語りになられていたのだと思われます。救いは、主にあって新天新地、新しいエルサレムまで含めており、それは子羊なるイエスにおいて成就

しています。

そして、「わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。」という言葉であります。イエス様ご自身が1章においてそうご自身をお呼びになっていました。イザヤの預言でも、この最初、最後の言葉を主なる神が使われています。つまり、初めから終わりのことまでを知っておられ、支配しておられるということです。私たちは、この狭間に生きています。既に完成された救いを受け取っていますが、まだ完成していない中に生きています。

2C ただで飲む命の水

^{6b} わたしは渇く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。

主は、黙示録をヨハネに書き記させたご目的を、21章また22章でお語りになられていきます。これは、教会に永遠の命の確信を持たせるためであり、そして、これから救いを受け入れる人々にも呼びかけている、つまり伝道をしておられるのです。

この言葉は、最も単純な形で福音を宣言している言葉です。人間は渇いています。神はいらないと言っている者も、生ける神を慕い求めて、あえいでいます。空白を埋めるために、いろいろなことをします。それは、「いのちの水」を求めているのであって、キリストにある神との関係が、その水なのです。サマリヤの女に対して、イエス様が言われました。「ヨハネ 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

3B 勝利者と第二の死 7-8

⁷ 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

ここの「勝利を得る者」とは、イエスがキリストであり、神の御子であると信じる者たちのことです。ヨハネは手紙の中で、「世に打ち勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。(1ヨハネ 5:5)」と言っています。そして、七つの教会に対する、勝利者へのイエス様の言葉を思い出してください、その数多くのものが、新しいエルサレムにある分け前でありました。エペソの教会に対しては、このようなものです。「2:7 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。勝利を得る者には、わたしはいのちの木から食べることを許す。それは神のパラダイスにある。」そして、フィラデルフィアにはこのように言われました。「3:12 わたしは、勝利を得る者を、わたしの神の神殿の柱とする。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き記す。」私たちの希望は、この都を受け継ぐことです。

⁸しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拜む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」

主は、ここで厳粛な警告を行なっておられます。20 章の最後に、火の池、第二の死についての啓示がありましたが、新しいエルサレムの啓示の中にも、主はこのことを忘れてはいけないことを教えておられます。これは、預言者たちにも示されていたことです。イザヤの預言では、新しい天と新しい地のことの宣言が、66 章 22 節にあります。「わたしが造る新しい天と新しい地が、わたしの前にいつまでも続くのと同じように、——【主】のことば——あなたがたの子孫とあなたがたの名もいつまでも続く。」けれども、24 節にはその反対のところにいる者どもについて、宣言しておられます。「彼らは出て行って、わたしに背いた者たちの屍を見る。そのうじ虫は死なず、その火も消えず、それはすべての肉なる者の嫌悪的となる。」私たちが、何をもって生きて行かなければいけないのか、その世界観をしっかりと持たねばいけません。永遠の命の希望だということです。そして、永遠の滅びから免れる、救われることなのだということです。

ここの、「臆病な者、不信仰な者」というのが筆頭になっていることを注目してください。恐れて主に近づかない、それで信じないという者です。一タラントを受けたしもべも、主人を恐れて、関わりを持つとしませませんでした。そのために、心が神に結びつかず、世の流れにそのまま流されるままにしかできないのです。そこから、いろいろな偽りの行動があるのです。

最後に励ましの言葉を読みましょう。「ヘブル 10:36-39 あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。「もうしばらくすれば、来たるべき方が来られる。遅れることはない。わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。」